すでに10万人が参加
全日自労の戦争と失業反対の大行進

沿道の歓呼と激励をうけて
力強い足どりの国民大行進

春とはいえまだ名ばかりの早春、身を切るような寒風にさいなまれながら、今日も自労の仲間たちはえいえいと行進をつづけている。「戦争と失業に反対する大行進」は沿道の声援にささえられながら日ましに大きな勢力となつていく。行進の足音は一日一日と高まり、あたかも滅びゆく岸内閣の挽歌を奏でるように国内に響きわたつている。すでに行進開始より二カ月、参加者の意気はいよいよ高まつてきた。

一月三日、大牟田を出発した「戦争と失業に反対する国民大行進」は、二月十三日現在彦根を行進している。

この間、大行進参加者は各地での集合参加者をふくめてすでに十万人をこえ、国民各層の中にますます大きな波紋をなげかけている。

その模様を行進団からの最近の通信でうかがつてみよう。

尼崎に入る。ここでは中学生の歓迎デモで迎えられる。

「戦争の費用を教育へ」「核兵器より教室を」などのプラカードをかかげた中学生の一団が、自労のオバさんたちとかけ声も勇しいデモで行進団を迎えてくれた。その元気な中学生たちは「ガンバレ」の声援でわれわれとともに尼ガ崎市民文化館前のうず巻デモへと参加した。

二月五日　大阪へ　大阪へ……

大人、子供、学生、婦人を問わず、全市民あげての大歓迎。

紅白、金銀の紙吹雪をあびて行進団はすすむ。歓迎にでてきた人のほとんどが行進に合流、みるみるうちに数千名の大行進となり、延々とつづく旗の波、人の波は電車、自動車のすべてをとめて、旗はなおもすすむ。

戦争と失業反対のこの叫びを！

※おれたちは歩いている
平和を守るために
足がいたいとき
腰がいたいとき
仲間を思うと
勇気が出る

おれたちの仲間が
この大行進を
涙を流して手をたたく
どん底生活のおれたちも
心は美しいんだ
誰にも負けない
美しい心をもつている

だから大行進ができるんだ
全日自労万歳
おれたちは平和のため
最後までたたかう

松の内から闘い
中小労も春闘へ立上る

【中小労】　中小労の場合春闘は春期闘争と名づけるよりむしろ日常不断の闘争の一部分とよぶほうが妥当かもしれない。

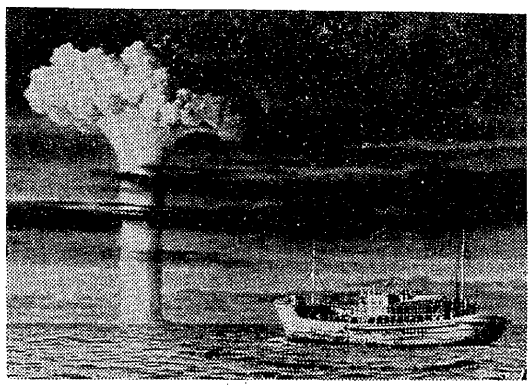
正月松の内の一月四日にはすでに闘いがはじまつているありさまである。いま中小労連三十余企業が春闘にたちあがつているが、その中にはすでに行進団を迎えてくれた「ガンバレ」の尼ガ崎市民文化館前のうず巻デモへと参加した。

三日後、船員たちは灰のついた部分の皮膚が赤黒く水ぶくれとなり、さらに黒色にかわつて来たのにおどろいた。マグロをとりに行つた「福竜丸」の船員たちは、全く不意打ちに米国の水爆の死の灰にさらされたのであつた。

「たいしたことはない」と夕カを くくつていた船員たちも、焼津協立病院外科主任大宮医師から原爆症の診断をうけ、静大の藤川理学博士が「福竜丸」から放射能を検出するに及んで大騒ぎとなつた。

物理学者、化学者生物学者、医師、日本中の科学者が焼津にあつまり、報道陣は大活躍をはじめ、漁港焼津はしばし世界中の視聴をこの一点にあつめた感があつた。

（一日からグランドで上映）



映画

九千万同胞の怒りをこめて全世界に訴える問題作！
「第五福龍丸」

一九五四年三月一日「第五福竜丸」の体験がなかつたとしたら、世界中の人々は超爆弾の本当の内容について、いまだにツンボさじきにおかれていたことだろう。

ところで「第五福竜丸」の二十三人の乗組員は、原子力研究とはおよそ何のゆかりもない、またそんな大それた実験については何の知識の持合せもない漁師たちであつた。彼らは貧乏だし、家族も養わなければならないしするから、正月早々魚を求めて遠くビキニ環礁のあたりまでのり出したのである。

三月一日の午前三時四十二分、夜明け前の暗やみの中で、白黄色の大きな火の柱が雲にむかつて立ちのぼるのを目撃した「福竜丸」の船員たちは、六、七分後、キノコ状の原子雲を目撃、船をゆるがす大爆音をきいた。

ちようどそのとき、ビキニ環礁で米国の専門家たちによつて「万歳」（ブラボオ）という暗号名の超爆弾の実験がされていたのである。

その後一時間半ほどすると真白な灰がふつてきて「福竜丸」の船体が真白なほどになつた。

結婚してはやくも一年という年月がながれた。
生活つづり方
くうだけがやっとの生活

人間を大事にするために
その世の中を
つくるために

結婚してはやくも一年という年月がながれた。三カ月目ごろだと思うが、義母から家計一切をまかされた。

月給一万五千円、それに義弟の月給五千円。家庭は義母、主人、私、義弟、それに中学三年生になる義妹の五人家族。

みんなたべざかりなので、主食費に六千五百円、副食費三千五百円、そのほか学費等々、毎月やりくりに頭をいためる。今月こそ赤字をだすまいとしても親戚に赤ちゃんがうまれたり、結婚式があげられたりすると、やはりどうしてもその交際費の分だけは赤字となり、つかいこんでいつた。

私は昨年のお正月から毎日家計簿をかいているが、毎月月末には主人と二人、または家族全部で家計簿の締計をだし、今月は何にお金をつかいすぎたかを反省しあつている。

その結果、三カ月の間に合計一万円ほどの赤字をだしてしまつた。

義母からは〝いままで、これでやつてきたのだからこんなにたりないことはない〟といわれた。それで是非必要だつたものに○印をつけてみた。ほとんど全部が○印でうまつた。

主人も義弟も、いまだにオーバすらもつていない。お酒もぜんぜんといつていいほど飲まない。こんなありさまなのだから、私たちの生活がどんなにひくい生活であるかがうかがわれる。

結婚直後に主人とふたりで語りあつた〝毎月千円づつは貯金していこう〟というささやかな願いは いまだに空念仏に終つている。

こんど、子供が生れたらよほどヤリクリを上手にやつていかないと生活をきりまわしていけないと 最近つくづくかんがえる。

憲法で保障されている最低の文化生活をいとなめるようになるには、もつとみんながしつかり手をつないで、ひとつひとつその条件を勝ちとつていかなくてはならないと強く感じる。

（一主婦）

合成機関紙〝がいたんろ〟より。

大地評青婦部結成
二六日目標に準備急ぐ

戦後労働組合の結成とともに組織され、いつも組合運動の先頭にたつて活躍した青年婦人部も、その後企業整備の嵐と労働省等の圧迫によつて一時消滅してしまつたがそのご労働運動の発展とともにふたたび組合の前衛としての青婦部の活動が強調され、この数年、大牟田地区でも多くの組合において青年婦人部が結成された。

大地評旗を先頭に堂々の行進（昨年のメーデー）

大地評では、この青年婦人部の協議会組織の再建（二十八年に三染東氏、敎組、電産で結成されていた）と組織の拡大強化のためにふたたび〝大地評青婦協〟の結成にのりだし、二月二十六日を目標に準備をいそいでいる。

結成準備会では「この際、青婦部のできていない組合は一日も早くつくつてほしい」と要望している。

ためになる、続けよ
好評の交流情宣・座談会

春闘の情勢分析と闘争の基本方針は一九五九年度の総評春季闘争方針であきらかにされており、大地評さん下の各単産は産業別組織の統一行動をたかめる指示によつて闘う態勢をつよめるため、積極的に活動をしているが、資本主義的企業逃走のシワヨセをはね返して各単産の要求を闘いとるためにはさらに地域の中広い共闘態勢がつよめられる必要がある。

大地評では昨年の秋闘にひきつづいて、二月二日から連日交流情宣と職場交流座談会をおこなつているが、参加した組合員から

【合成】　非常にためになつた。これからも十分、企画してやつてほしい。

【三煙】　大変よかつた。こういう交流座談会を職場の中でやつてもらいたい。

といつた感想が多く、好評であるまた、中には

【三染】　三鉱労組は程度が高くて一方的にしゃべりすぎた

【三鉱】　化学の組合は、あまり数字をひねくりまわすようだ。労働者の感覚からいえば、皮膚にピツタリと感じさせるような教宣をやる必要があるのではないか

といつた有益な批判もでていたが とにかく、大地評ではこれからも交流を続けていくので、多くの活動家の積極的な参加をのぞんでいる。

清潔でたくましく
メーデーの準備に着手

一九二〇年（大正九年）日本ではじめてのメーデーがおこなわれてから（途中で戦争のためにいく度か中断されたが）今年は第三十回目のメーデーをむかえることになつた。

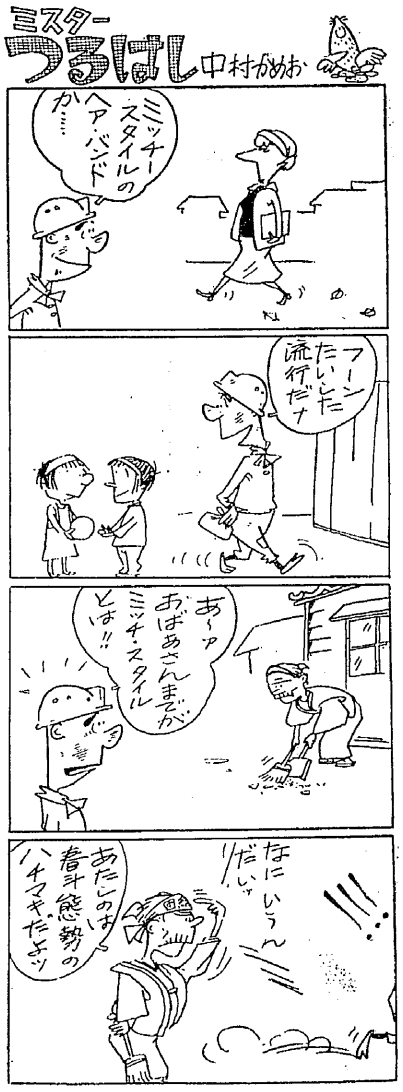
大牟田地区では終戦の翌年、昭和二十一年に緑したたる記念グラウンドでやつと長い戦争から解放され、民主主義の新しい息吹きを感じはじめた数万の労働者があつまつてはなばなしく復活した。しかし、そのときあつまつた労働者は軍服姿に軍靴、戦闘帽といういでたちで、延命公園を背景とした舞台に赤旗の数もまばらでしかなかつた。

その後のメーデーは時の流れとその時の闘争の姿を反映して、ハチマキをしめたメーデーから、仮装隊をくりだすお祭り的なメーデーへと変つてきた。

大地評では、今年のメーデーをむかえるにあたつて、二月五日に第一回の実行委員会をひらき〝今年のメーデーは、いままでのように炭都祭りのようなお祭り行事的、仮装行列みたいなメーデーはやめて、もつと労働者としてのたくましさと清潔さをもつた規律あるメーデーにしたい〟という事務局の考えを中心に討議をおこなつた。

二月十九日の第二回実行委員会で結論をだし、具体的な案をねつていくことになるが、事務局では「性別、階層別、組合別に統一したものを企画し、全体として統一したものにしたい」という考えで準備をすすめている。

自民党への献金
半年で九億五千万円

昨年の一月から六月まで資本家団体である「経済再建懇談会」から自民党へ政治献金された額は六億三千万円、ほかにこの「懇談会」を通さずに献金された額は三億二千四百万円だつたという。

日ごろ「不況」と賃上げにも応じようとしない資本家たちが、どこにこのようなばく大なかくし金を持つていたのか？と国民から不審がられている。